

CHECK!!!



ヒルガキツキミソウ  
ツキミソウはメキシコ  
原産で江戸時代に  
観賞用として渡来し  
た。夕方、4枚の花弁  
を開き、夜半にはピン  
ク色になり、翌朝には  
しぼんでしまう可愛  
な花。高後崎番所跡  
の隅だまりに群れ咲  
いていた。



クチナンシ  
暖かい気候を好み、海  
岸近くの山野に自生  
することが多い。花は  
甘い芳香があり、花後  
のオレンジ色の果実  
は古くから乾燥して  
食用の着色料として  
利用され、正月のきん  
とんの色付けなどに  
使われた。



ユキノシタ  
湿気の多い半日陰に  
生育、5～6月に花茎  
を伸ばして花を咲か  
せる。和名のユキノ  
シタは白い花を降る  
雪に見立て、その下  
に緑の葉がある様子  
を意味する。葉は火傷  
や熱冷まし民間薬と  
して利用される。



E 海岸沿いの道から、  
一気に山道のような小  
道となって、船越へと  
続く。



G 船越は古くから  
の漁師町。いまも小  
さな造船所や修理工  
場がある。



H 名切地区から一  
気に登りになる道  
はさすがにきつい。  
ノルデックウオー  
キングの醍醐味だ  
った。



I 展海峰の展望台から  
は九十九島が一望。  
今回歩いて来た海沿  
いの道が望めた。



D マリーナの先から急な道  
を登る。背後に九十九  
島の島々が望める。



F 筏の上のレストランは  
牡蠣焼きとクラム  
チャウダー、牡蠣  
笹めしがメニュー。  
九十九島らしい味  
わい。



A 西海パールシーリ  
ゾートからウッドデ  
ッキの丘を越えて歩  
きだす。



B 漁師町の風景を見  
ながら海岸沿いの道  
を進む。



C 道はすぐに林の中  
の小道となった。



# のんびり九十九島を眺めながら

西海パールシーリゾートのデッキで準備運動。今回のウォーキングをリードしてくれるのは、眞藤健一さん。今回は新しいスポーツとして最近注目を集めるノルデックウォーキングを試みた。まず漁村沿いの小道を辿る。なるべく車の道を通らないで歩くのだが、日ごろ見ない風景に出会えて、これが案外面白い。小道の木立の間から海の風景が望める。30分も歩くとマリーナがあって、その先には赤い橋が架かって粟島神社がある。いまも安産の神様として信仰を集める。

ノルディックウォーキングではスキーに似た二本のポールを使う。杖のように前に突くのではなく、足の傍に突いて後に押すようにして歩く。思ったより上腕と胸筋を使うから、全身運動になるといわれた。

墓地があるところから急傾斜の道を登り、少し車道を歩いたあと、船越ニュータウンの先から海辺に下りる。そこに潮の干満差を利用した塩水プール跡を発見して驚いた。かつては地元の子も達が楽しんだという。海辺の細い道が続く。車が通らない

し、海風が心地よくて気分爽快。いかに僕は車社会に毒されているか改めて思う。せつかく九十九島の海辺を歩くのだから、ランチは牡蠣焼きにしよう。牡蠣は冬の特産だが「岩牡蠣」が夏にも生産されている。2時間ほど歩いて船越のマルモ水産の筏レストランで牡蠣焼きランチだ。牡蠣のクラムチャウダーと牡蠣の笹めし。夏の岩牡蠣は少し高いけれど、身はたっぷり美味い。

ふたたび歩き出す。船越には船の工場などが残って漁師町の名残がある。バス道に出てしばらく進むと、九十九地区公民館に着いた。ここには珍しい潮湯があるので、ひと風呂楽しんでほしい。第一ヨットハーバーの上の道を名切地区へと歩いて行く。そこから一気に登り勾配の道となる。脹脛が伸び切ってしまう最後の坂道をあえぎながら登る。バス道に出て左折すると、すぐに展海峰である。少しもの足りないウォーキングだったけど、日ごろ見ない様々な風景が楽しめた海辺の散歩道だった。

## 亀の子島の真珠養殖

波が穏やかな九十九島の島影を利用して、牡蠣の養殖が盛んに行われているが、かつては真珠養殖の海として知られた。「亀の子島」は大正3年に、九十九島で最初に真珠養殖を始めたところ。砂嘴になった浅瀬には長い橋が架かっている。



## 高後崎番所跡

江戸時代末、佐世保港の入り口の向後崎に松浦藩の番所が置かれていた。俵ヶ浦半島の先端近くに「高後崎番所跡」の碑がある。異国船の侵入や密貿易を取り締まるために設置されたもの。船着き場の古い石積み名残を感じさせる。対岸の西彼杉半島には大村藩が設置した「寄船番所」がある。



## 丸出山砲台観測所と小首砲台

佐世保港をとりまく一帯には「佐世保要塞」と名付けられた要塞基地がある。俵ヶ浦半島には「丸出山」「小首」「高後崎」の砲台跡がある。陸軍によって作られたもの。海からの敵に備えて日露戦争のときに作られたのだが、実際の戦闘には一度も使われなかった。明治時代の建造物とは思えない新しさで、静寂な山のなかにひっそりとある。



ウォーキングメモ

ウォーキングメモ